

「イノベーション探究Ⅰ」～地域再発見プログラム～第5回

1. 実施日

令和3年6月19日（土）1・2限

2. 場所

1棟多目的教室

3. 対象

グローバル科1年生（6・7組）

4. 講師

鳥羽高等学校 教諭 6組 山中 脩平 中村 啓介
7組 金本 瑞穂 矢野 和久

5. 内容

(1) アイスブレイク

- カウントアップ

チームで行うゲームである。自然数1、2、3、…を一人1つずつ順に発声する。数を発声する際、右手は右頬か左頬に触れる。例えば右頬に触れながら「1」と発声すると1と発声した人物の右隣の人物の手番になる。左頬を触って数を発声すると手番は左隣の人物になる。ただし、5の倍数を発声するときのみ、右手は頬にふれずに、おでこに添える。左隣に手番を回したい場合は、敬礼するような形でおでこに右手を添える。右隣に手番を回したい場合は、右の手のひらを空に向けるような形の敬礼を行う。手番を間違えたり、右手のアクションを間違えたりすればゲーム終了である。

- 共通点探し

格子状に枠とられたワークシートを各チームに配付する。そのワークシートにチーム内の共通点を1つ記入し、右隣のチームにワークシートを渡す。同時に、左隣のチームからワークシートを受け取る。受け取ったワークシートには、これまでのチームが共通点を記入しているので、記入されているもの以外の共通点を話し合ってお互いに記入する。

- チーム名の決定

チーム名、リーダー、会計係を決める。

(2) テーマの決定

前回の橘大学の乾先生からの講演内容を参照して、探究の枠組みの中で、自分たちがどの段階にいるのかを確認した。マンダラートを利用してチームの探究テーマに関する興味・関心を焦点化する。キーワードから発想を広げていく過程では、5W1HD（Dはdefinitionで本校独自の観点）の視点を大事にするように指導した。

6. 学び

マンダラートを記入する過程で、関連する事項に関するワード、ニュース等を調べることになった。大きな課題意識を焦点化し研究の問い（リサーチ・クエスチョン）にするための基本的な知識を獲得できた。

7. 次回への課題

マンダラートの完成と、2、3個の興味・関心のあるテーマ、ワードを決める。

8. 授業の振り返り

これまでの授業で、アイスブレイク活動を充実させるとその後のグループワークの質が向上することが経験的に分かったことから、本時もアイスブレイク活動を丁寧に行った。その結果、マンダラートの作成時は、期待通りチーム内で円滑なコミュニケーションをとることができた。授業終了間際になると、マンダラートの未記入欄をワードで埋めていくことに学習者の意識が向いてしまった。本時は、マンダラートを完成させることで、次の過程に進むような授業設計ではなく、探究テーマを決定するツールとして利用した。チーム内で既に探究のテーマ、また今回の探究で明らかにしたい事項とその方法などがチーム内で共有されている場合は、マンダラートに未記入部分があってもよいのではないだろうか。授業終了間際に、このことを学習者と共有し終了した。

